

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600510		
法人名	医療法人社団寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家成田		
所在地	千葉県成田市宝田362-2		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホーム いきいきの家成田」は、成田空港や成田山新勝寺、大規模なショッピングセンターが近くにあり、便利な場所に位置しています。ホーム周辺は山や川そして、田園地帯が広がり、のどかな自然の中にあります。開設から5年が経過しました。清潔で明るく暖かい雰囲気を維持できるよう心掛けています。職員は理念に基づき個人の意思や尊厳を重んじ介護にあたり、接遇を重視したケアを目指し努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いきいきの家成田」は近くに成田山新勝寺があり、静かな自然に囲まれた環境の中にある。近年はショッピングセンター・成田空港等が建設され、利便性に優れた立地条件となっている。施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースも確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。職員全員が、施設理念を理解・共有し、ケアの実践に繋げている。また、職員全員が入居者の尊厳を大切にした言葉掛けや対応に配慮し、人権尊重の意識確認を徹底している。日頃からコミュニケーションを通して意向や嗜好の確認を行っており、入居者本位の自由な生活を支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>尊厳、安心した生活、技術の向上を理念に掲げ、ホームの方向性を常に念頭におき、管理者と職員は、実践につなげる。</p>	<p>「住み慣れた環境の中で自分らしく生き生きとした生活が送れるように」を主眼とした理念を掲げている。スタッフルーム・玄関に理念が掲示され、職員全員が共有しており、理念に基づくサービスの提供に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事(ゴミゼロ運動など)に参加したり、日課の散歩、近隣の方ホームでの行事に招いたり交流を心掛けている。</p>	<p>日頃から散歩等の外出時には、地域住民と挨拶を交わす関係作りがなされている。地域の清掃等の地域行事には、積極的に参加しており、地域との交流を図っていると共に、施設行事には地域住民を招待しており、地域との交流の機会を設けている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、お伝えしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価結果や改善点などに基づきご家族様と話し合い、より良いサービスを目指し実施している。</p>	<p>入居者・家族・市職員・施設職員等を構成員として、年5回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設理解の促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に活用している。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括や社共などを通じ様々な交流がある。</p>	<p>日頃から市に対して、業務における相談や連絡を随時行っており、密に連携を図る関係が築かれている。また、地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて情報交換を行われており、共にサービスの質の向上に向けた課題解決に取り組む体制が構築されている。</p>	

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修へ参加し、何が身体拘束になるのか確認している。絶対行なわないという姿勢を全職員が、もっており取り組んでいる。	身体拘束排除や虐待防止におけるマニュアルを整備し、身体拘束排除における意義を職員全員が理解・共有している。また、虐待防止マニュアルを活用し、家族から情報収集を行い虐待防止・早期発見に努めると共に、日々のケアへの影響や適切な対応方法について理解浸透・周知徹底に向け取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを遵守している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例を通して権利擁護について学び理解を深める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学を通し契約時利用者様やご家族様の不安、疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。契約時には、外部への相談窓口について説明している。	意見箱や苦情・相談窓口を設置すると共に、家族の面会時に直接意見を確認している。また、運営推進会議を活用する等して、家族の意見・要望を引き出せるように工夫している。挙がった意見においては、会議にて周知・検討し、入居者・家族の意向に添ったサービスの提供に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部運営者や管理者による面談の機会がある。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見や提案を確認する場を設けている。また、管理者が職員と個別に面談する機会を設け、職員の意見・思い・要望等の把握に努めている。	

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格取得への費用の補助や取得後の手当がある。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外部の研修に積極的に参加できるように配慮している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>成田市ケア会議、グループホーム連絡会を通じ情報交換を行なっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談、施設や病院などへ訪問をして、入居前の不安を出来るだけ取り除くようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>必ず見学をして頂き、入居前からご家族様の求めていることや希望を聴いて信頼関係を築けるよう取り組んでいる。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当ホームのサービスだけでなく他の利用法やその方に適したサービスをアドバイスしている。急を要する場合は、系列の施設をお勧めしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自立支援を念頭に接する。また入居者様の意見や知恵を借りお願いする等の場面を設ける。</p>		

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のためのケアでなくご家族様にも共に支えてる一員であることをお願いしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や地域への外出を支援している。	入居者・家族から情報を収集し、人間関係や生活歴等を把握している。希望に応じて、馴染みの場所への外出や地域住民との交流が地域社会との関係継続・生活の活性化に繋がっている。また、趣味や特技を活かした活動を支援しており、馴染みの生活ペースの継続に配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係を把握し、お互いを気遣える様配慮している。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先への訪問等を行な事がある		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から入居者様のニーズを探り把握に努めている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。入居後は、日々の生活の中で、コミュニケーションを取りながら、一人ひとりの意向や嗜好等をくみ取り、より新しい情報の確認に努めている。入居者本位で検討し、その人らしい暮らしの提供を支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し共有して把握に努める。		

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、介護記録、申し送り等により状態を把握している。2ユニット合同の申し送りをを行いお互いのユニットを把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、担当者会議によりプランを立てている。入居者様、職員、家族様の声を反映し施設サービス計画が作成されている。	本人・家族から確認した意向を基に職員で話し合い、介護計画を作成している。また、定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直ししている。また、申し送り表や意見交換により、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、センター方式の活用し情報の共有をはかる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応している。ホームとして出来ることかどうか明確にする。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入等をおこなっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族様の希望を大切に、入居時に往診医が居る事も説明して支援している。	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。協力病院を設置し、定期的に往診が実施されていると共に、急変時や緊急時の協力体制が構築されており、適切な医療支援及び健康管理が行われている。来年度は協力病院を変更し、24時間体制での対応を検討しており、緊急時・重度化においての協力体制の実施に向け、検討している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの看護師の訪問にて相談し、健康管理を支援している。		

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期に退院できるように情報交換や相談に努める。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を設けそれに沿ってケアに取り組む。	終末期・重度化に関する指針を明文化しており、家族へ説明をしている。重度化した場合には、家族や職員で話し合い、意向を踏まえた上で、施設として出来る限りの支援を出来るよう体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをもとに対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に、訓練を実施している。(避難、経路)	消防署の協力のもと、定期的に防災・避難訓練が行われていると共に、研修も実施しており、職員は避難方法を身に付けている。日頃から自治会に対して協力の呼びかけを行っており、非常時・緊急時の協力体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への尊厳を理念においている。接遇を周知している。	入居者の尊厳を理念に掲げており、会話や介助方法等に細心の注意を払い、入居者のプライバシーに配慮している。また、写真の掲示等には、家族に説明の上、同意を交わしていると共に、個人記録を所定の場所に保管し、個人情報の保護にも努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に配慮した場面を、職員が理解し日常の中で選択できる場面をつくる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れの中で、個々のペースを乱すことなく生活できる支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等希望によりおしゃれ、身だしなみが出るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事する事により、情報を得ている。配膳や下膳、野菜の下ごしらえ等参加できる。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け・調理等を共同で行っている。配食業者の管理栄養士による献立作成が行われており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、職員と入居者が一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事ができるよう工夫している。その他にも、行事に応じた特別食の提供・外食会の実施を通じて様々な食の楽しみを提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託により管理栄養士が栄養のバランスを確保している。水分量が確保できるようにチェック表を用いている。		

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行なっている。また個々に合った口腔ケアも行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する。時間での誘導可能な限り、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導・声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援がなされている。夜間においては、トイレ誘導により、適切な排泄支援がなされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し食事、水分の摂取状況を把握すると共に運動も積極的に勧めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺い支援している。入浴用リフトも利用しているので、身体の負担も少なく入浴できる。	入居者の希望に応じて回数や時間帯等柔軟に対応している。また、リフト浴槽を使用し、入居者の能力に合わせた入浴支援も行われている。入浴拒否に対しては、無理強いせず、タイミングや声掛けを工夫し、快適に入浴してもらえるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に適した環境の整備、生活のリズムの把握に努める。安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに沿って実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったお手伝いをして頂けるような場面を作り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		

【千葉県】グループホーム 行きいきの家 成田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に合わせた外出計画を実施する。散歩や買い物、ドライブ等多く外出できるよう支援している	日頃から散歩や買い物等の外出を支援している。季節に応じた外出行事を企画・実施しており、入居者の生活の活性化を図っている。また、家族との外出は自由となっており、家族と入居者が楽しみを共有できるよう配慮している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理(少額)でお金を持っている場合は、買い物に出掛けたりして支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話が出来るようまた手紙が書けるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち明るさや音の配慮も心掛けている。	施設内は全面バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。リビングには、ソファやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるよう工夫している。また、季節に合わせた飾り付けを行い、季節感を大切にしたい、居心地良い空間作りに取り組んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のコタツやソファにて、ゆっくり過ごすことができ、共有空間でも思い思いに過ごす居場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂き、居室は入居者様の身体状況に合った配慮をしている。	入居者の希望に応じて馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、全居室にエアコンが設置され、職員により、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を心がけ安全に生活できるよう配慮している。トイレ、風呂場には、イラストや文字で分かるようにしている。手摺り等も設置している。		